

今日も平和や命の大切さについて考える

8月9日（金）

今日も平和について考えたいと思います。本日8月9日は長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が行われます。長崎市では毎年原爆投下の8月9日に松山町平和公園の平和祈念像前において、原爆犠牲者の霊を慰め、あわせて世界の恒久平和を祈って長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典を挙行しています。式典は、原爆犠牲者のご遺族をはじめ、市民多数の参加のもとに行われ、この席上での長崎市長の平和宣言は、国連加盟の各国元首をはじめ、全国の地方公共団体などへ送るとともに、インターネットを通じ全世界に発信し、核兵器廃絶と世界恒久平和の確立を訴え続けています。6日に行われた広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式で、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式で、こども代表の広島市立祇園小学校（6年加藤 晶）さんと広島市立八幡東小学校（6年石丸 優斗）さんは、次のような宣言を行いました。

こども代表の平和への誓い全文です。「平和をつくるのは私たち」

目を閉じて想像してください。緑豊かで美しいまち。人のにぎわう商店街。まちにあふれるたくさんの笑顔。79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。「ドーン!」という鼓膜が破れるほどの大きな音。立ち昇る黒味がかった朱色の雲。人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。ある被爆者は言います。あの時の広島は「地獄」だったと。原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。被爆者である私の曾祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年経った今でも多くの被爆者を苦しめ続けています。今もなお、世界では戦争が続いています。79年前と同じように、生きてくても生きることができなかった人たち、明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちが、この世界のどこかにいるのです。本当にこのままでよいのでしょうか。願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。一人一人が相手の話をよく聞くこと。「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。私たちにもできる平和への一歩です。さあ、ヒロシマを共に学び、感じましょう。平和記念資料館を見学し、被爆者の言葉に触れてください。そして、家族や友達と平和の尊さや命の重みについて語り合しましょう。世界を変える平和への一歩を今、踏み出します。

先日も触れましたが、8月6日（広島に原爆が投下された日）、9日（同長崎）、12日（日航機墜落事故）、15日（終戦記念日）は平和と同時に、命の大切さについて考える10日間だと思います。

〈保護者・地域の皆さんへ〉明日8月10日（土）から8月16日（金）までは学校閉庁日とします。

本校職員は出勤いたしません。何かとご不便をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いします。